

会議名	第15回多摩市地域公共交通会議		
開催日時	令和6年1月17日(水)午後2時30分～		
開催場所	多摩市役所西第1会議室から第3会議室		
会議次第	議事 (1) 多摩市交通マスタープランに基づく評価指標等について (2) 次期多摩市交通マスタープランの作成について 報告 (1) 多摩市自転車用ヘルメット購入助成事業について		
出欠席(敬称略)	(1) 出席委員・25名(氏名( )内は代理出席者の氏名)		
	No.	職名	氏名 協議会構成委員
	1	会長	陰山 峰子 多摩市 副市長
	2	副会長	吉川 徹 東京都立大学 大学院都市環境科学研究科建築学域教授
	3	委員	八山 晋一郎 (神鳥 洋) 小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部交通企画部課長
	4	委員	竹村 友晴 多摩都市モノレール株式会社 総務部課長
	5	委員	佐藤 勝太 神奈川中央交通株式会社 運輸計画部計画担当課長
	6	委員	早田 俊介 京王電鉄バス株式会社 運輸営業部乗合事業担当課長
	7	委員	鈴木 健一 飛鳥交通ニュータウン株式会社 多摩地区統括部長
	8	委員	山崎 龍男 小田急交通南多摩株式会社 本社営業所長
	9	委員	小野 賢治 (石井 正己) 京王自動車株式会社 運輸事業本部取締役運輸事業本部長
	10	委員	米澤 暁裕 一般社団法人東京バス協会 乗合業務部長
	11	委員	小池 毅 一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会 業務部長
	12	委員	小林 康雄 多摩市視覚障害者福祉協会 理事
	13	委員	勝手 春幸 多摩市身体障害者福祉協会 理事長
	14	委員	大石 欣也 多摩市聴覚障害者協会 福祉対策部長
	15	委員	中村 一雄 多摩市自治連合会 自治対策委員
	16	委員	佐々木 茂 多摩市老人クラブ連合会 副会長
	17	委員	鈴木 淳 (染谷 悠一郎) 国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官(総務企画担当)
	18	委員	鎌塚 俊充 (関口 達也) 国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送担当)
	19	委員	横溝 輝昭 京王バス労働組合 多摩支部 支部長
	20	委員	大場 伸 (菅野 博明) 飛鳥交通ニュータウン労働組合 執行委員長
	21	委員	二瓶 秀雄 小田急交通南多摩労働組合 書記長
	22	委員	山中 重樹 京王自動車労働組合 桜ヶ丘支部 支部長
	23	委員	塚原 輝浩 東京都南多摩東部建設事務所 管理課長
	24	委員	吉越 守 警視庁多摩中央警察署 交通課長
	25	委員	佐藤 稔 多摩市 都市整備部長
	(2) 欠席委員・・・1名		
	(3) 傍聴者・・・0名		
	(4) 事務局・・・4名(多摩市都市整備部交通対策担当課長・道路交通課交通係)		

## 1 開会

事務局が配布資料の確認を行った。

## 2 委嘱状交付

事務局が委嘱状の交付に係る連絡及び代理出席者・欠席者の連絡を行った。

## 3 会長挨拶

会長が開会の挨拶を行った。

## 4 出席者自己紹介

出席委員 25名より、それぞれ挨拶があった。

## 5 議事

### (1) 多摩市交通マスタープランに基づく評価指標等について

#### ○事務局

- ・資料No.3における各取組項目の概況、議決事項ではなく協議事項である旨等を説明した。

各委員より、それぞれの取組項目等に係る報告があった。

#### 評価指標 3-2

#### ○吉越委員

- ・令和4年の多摩市内の交通人身事故の発生件数・死者数・負傷者数ともに令和3年に比べて減少している。なお、令和5年は令和4年と比べて多くなっており、多摩中央警察署管内で4件死亡事故があった。そのうち二輪車の単独事故が2件で、2件とも胸部を強打したことが原因となっている。今後の対策として、胸部プロテクターの利用促進、初心運転者に特化した二輪車実技教室の実施、二輪車の悪質危険な交通違反の取り締まりを推進したい。高齢者対策は、交通安全教育の推進、免許返納の働きかけを行いたい。自転車対策は、信号無視、右側通行、一時不停止、歩道通行、違反の取り締まりを強化していく。車を運転する際は早めのヘッドライト点灯、オートバイに乗る方は胸部プロテクターの装着をお願いしたい。
- ・令和6年2月1日から運転免許証の更新は事前予約が必要になる。予約できる方は、都内居住者で70歳未満の方等々となる。事前予約をお願いしたい。

#### 評価指標 1-1

#### ○八山（代理神鳥）委員

- ・令和4年度の3駅の乗降人員の状況について、令和3年度より増加はしているが、ピークであった平成30年度に比べれば各駅ともマイナス15%～20%くらいで、テレワークなどによって状況は完全に戻っていない。

#### ○竹村委員

- ・令和3年度よりは増加している。乗降客数は約9割程度までは回復をしているが、コロナ禍前の水準までには回復していない状況。
- ・平成10年11月27日に開業して今年度25周年を迎える。開業25周年記念特別期間では、記念ヘッドマークを付けた列車の運行等さまざまな企画を実施する。その1つとして、日本夜景遺産に認定されたことから、令和5年12月9日に夜景列車の運行を実施した。

- ・子育て応援事業として小児用1日乗車券「たまモノこどもワンデーパス」を販売している。

## 評価指標 2-1

### ○佐藤（勝）委員

- ・乗降客数はコロナ禍前の約9割の回復率になっている。弊社エリア内だと8割少しくらいの戻りになっているので、多摩市内は少し良い。
- ・令和5年7月1日に運賃改定をした。それを原資として乗務員の待遇改善等を行っていきたいが、2024年問題や乗務員不足で、バス事業者はかなり厳しい状況である。現状の路線を何も対策をせずにこのままの状態を維持するのはなかなか厳しいところがある。

### ○早田委員

- ・乗降客数は、コロナ禍前と比較して、大体85%から90%の利用である。
- ・令和5年秋に運賃改定をしている。乗務員不足に関して報道等々で耳にされる方も多いかと思うが、今の時刻表を維持することは、ほぼ出来ないことがわかっている。対策を打って、形を変えながら、なんとか地域の交通網を維持していきたいと思っている。
- ・乗務員は当然車外事故に関しては細心の注意を払って運行しているが、車内人身事故についても同じく注意を払っている。これは車内のお客様のご理解が不可欠である。バス車内で走行中にご移動されることをご遠慮いただくように周知していただくと有難い。

### ○鈴木委員

- ・乗降客数については、令和4年度は徐々に回復してきている。ただ、コロナの影響で需要が激減した時に退職したドライバーが相当数いたが、戻ってこない状況にあり、令和5年11月20日に労働環境改善の原資の確保で運賃改定した。ライドシェアの問題とか、業界としては少し厳しい状況である。
- ・令和5年5月、電気自動車（EV）を20台入れた。環境に良い車でもあるが、多摩市と協定を結び、災害時には地域の皆様方に電力確保というところで協力することとした。

### ○山崎委員

- ・タクシー業界としては厳しい状態が続いている中で、数字をみると利用者が伸びつつあるが、乗務員不足で供給が追い付いていない。人材を確保するために多くの資金を投入しているが、なかなか人が集まらない。需要に応えきれないというのが現実である。令和5年11月20日に運賃改定した。皆様に協力していただきながら、地域の公共交通機関の一員として、タクシー業界は地域に根付いて取り組んでいきたい。

### ○小野（代理石井）委員

- ・どこの会社もコロナで約2割の乗務員が退職して、その穴埋めに各社とも大変苦慮している。外部事業者を介した採用を試みる場合もあるが、経費も相当にかかるため、体力がない会社は、人が増えないような状況になっている。
- ・日本型ライドシェアはタクシー会社が進めることになっている。三多摩については、これからというところである。できるだけ地域の皆様にご迷惑をかけないような形で運行していきたいと思っている。

### ○米澤委員

- ・バス事業者には、低公害車両の入れ替え目標が課されている。低公害車というと、水素の燃料電池（FCV）バスとか、電気（EV）バスというところであるが、それぞれ一長一短あって、例えば水素の燃料電池バスに関しては、水素ステーションがあまり無い。市内に関しては、幸いにしてこの近くに1カ所あるので、それほど遠くまで行かなくて良いのだが、23

区においては臨海部にしか無い。一方でEVだが、充電に時間がかかる。バスで空の状態から満タンにするまで、丸一晩かかってしまう。そのため、車庫に充電スペースが必要になる。水素も電気も一長一短がある中で、導入目標があるので、次なる課題として挙げられている。

#### ○小池委員

- ・全体的な話をさせていただくと、令和5年12月分の実績をみると、延べ実働車両数がようやく令和4年同月を上回っており、少しずつ稼働車両数が増えてきているという状況である。
- ・令和5年11月20日に運賃改定した。値上げ率は約10%としたが、それと同等の収入増がみてとれた。徐々に回復の兆しをみせている。ただ、コロナ禍前と比較すると戻りは80%台に留まっているので、各事業者の採用活動とともに協会としても地域のハローワークに出向く等の取り組みをしている。引き続き、供給回復に努めていきたいと思う。

#### 評価指標 2-1、2-2、3-1、3-3、4-1、4-2

#### ○佐藤（稔）委員

- ・指標2-1 ミニバスの乗降客数については、令和4年度1,906人となっており、コロナ禍前の水準まではいかないまでもお客様は一定程度回復してきている。一方、指標4-2 地域密着型交通運行事業収支率については、令和3年度と令和4年度を比較すると約1ポイント落ちている。乗降客数が増え、収入は大体7%ほど増えているが、燃料費、人件費等の経費の増加もあって、収支率として1%ほど落ちている。
- ・ミニバス東西線について、令和5年7月28日から多摩市立中央図書館のオープンに伴い、停留所を新設、運行ルートの一部変更させていただいた。この路線変更については、運行事業者である京王バス様に多大なご協力を賜った。

#### 質疑応答

#### ○小林委員

- ・バスの運転手の車内事故を防ぐ活動は敬服している。もうひとつは、障がい者が事故に巻き込まれたというような事故分類は何かあるか。これは多摩中央警察か。

#### ○会長から回答

- ・多摩中央警察署の吉越委員が退席されているので、機会があればご説明させていただく。

#### ○佐々木委員

- ・これからもっとタクシーの利用が増えてくと思う。先ほどドライバーの不足で、一人雇うのに結構なお金を外部事業者には払わなければならないと聞いたが、見通しは明るいのか。

#### ○小野（代理石井）委員から回答

- ・誤解があったかもしれないが、100%外部事業者に依存しているわけではなく、各社広告を出したりして、直で来ていただいて採用になったケースもある。ここでどのくらいの目安でとは申し上げられないが、早くコロナ禍前の乗務員数に戻したいと思っている。

#### ○佐々木委員

- ・私はもっとバス利用者は減っていくのではないかとと思っている。私の友達が、足腰が悪くなり車いすで病院や買い物に行くのにバスを利用しているのだが、利用するのが何か気の毒だと。道具を降ろして車いすを乗せるという作業で5分くらい止まって、迷惑をかけるので、乗らないようにしていると。そういう人が増えてくると、コロナ禍前に戻るのは、かなり難しいのではないかと少し感じた。

#### ○米澤委員

- ・車いすをお使いになられて、遠慮しがちだとのことですが、気になさらずに乗ってく

ださいとバス業界を代表して、申し上げたい。車いすをご利用の方に対しても、車両もより乗りやすいように、より固定しやすいように、より安全に、ハード面の改良も進んでいる。シルバーパスもあるので、ご心配なさらずにどんどんバスを使っていたら、どんどん外に出て行っていただきたいと思います。

#### ○勝手委員

- ・この前ジャパンタクシーを利用したが、以前使ったときよりも非常に出発が早くなった。以前は10分近くかかっていることもあったが、5分くらいで出発するようになった。一般の車いすを利用している高齢者もジャパンタクシーを利用して出かけると、通常の料金で乗れる。介護タクシーに乗らなくて良いので、これから利用していただければと思っている。

#### (2) 次期多摩市交通マスタープランの作成について

事務局より資料4-1及び4-2に沿って説明を行う。

説明内容の要点は下記のとおり。

- ・現状の計画が令和6年度で切れてしまうので、次期計画の策定と、多摩市地域公共交通再編実施計画（以下「再編実施計画」という。）をどうしていくかという課題がある。
- ・コロナ禍後の現状の交通実態を把握したいので、最初の令和6年度については、各種調査・アンケート実施等をメインに行いながら基本的な方針等を検討したいと考えている。
- ・令和7年度は、本会議で調査結果を含めた計画の作成と、どのように市民参画を実施していくか検討していく。
- ・交通事業者が中心となるが、別途部会という形で開催して進めていきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。
- ・再編実施計画については、次期交通マスタープランの全体的な整理の中で、今後の取り扱い、今後の進め方、しっかり定めていきたいと考えている。

#### 質疑応答

##### ○中村委員

- ・収支率の改善とか、高齢者が出歩かなくなるとか、いろいろなことがあって、再編実施計画がとん挫している。次のマスタープランの中に具体的に盛り込まれる予定なのか。

##### ○事務局から回答

- ・どのような形で盛り込んでいくかは現在検討中である。具体的内容を盛り込むのは難しい部分があるが、考え方としてしっかり盛り込んでいきたいと考えている。

##### ○中村委員

- ・コロナで2年ほど失って、その間に高齢化が進んで、買物難民であったり、出歩けなくなって、フレイルとか、高齢者に厳しい時代だが、タクシーだと乗りやすいとか、それを担うような新しい試みをどのように個々の弱者に上手く行き渡らせるかをぜひ盛り込んでいただきたい。交通難民とは言わないけれども、厳しい地域があるわけで、そういうところへの目配りとか、ぜひ考えていただきたいと思っている。

##### ○事務局から回答

- ・基本的な考え方というのは変わらないと考えているが、乗務員が非常に不足している中では、再編実施計画で定めたやり方ではおそらくやれないというのが現実的な考え方だと思う。移動の需要にどう応えていくのか、どう促進していくのか、検討の深化を進めていきたいと考えている。

##### ○大石委員

- ・現在、無人改札、駅員がいない状況が少しずつ増えている。バスやタクシーも同じだが、私たちは人に助けってもらわないと交通で困る状況がある。情報がある、支援があるというのは

私たち聞こえない者にとってはとても大切なのである。駅に情報がない、バスの中でも情報がない、そういう部分もまだまだたくさんあり、解決できれば良いと思っている。情報についてスムーズに得られるようなネットワーク作りがあると良いと思う。2025年東京でデフリンピックが開催される予定である。交通や観光なども含めて、外国からたくさんのお客様がいらっしゃる状況が予想される。外国の方が情報を得るのは日本もまだまだ遅れている面がある。情報を得るといふモデルとなるような仕組み、システムが作れると良いと思っている。そういったものも計画に入れていただきたいと思っている。

**○事務局から回答**

- ・無人駅の話もそうだが、最近交通手段が複雑化しており、色々な仕組みで乗るような形になっているのは確かだと思う。どのように交通手段を使うのか、使いやすさや、それをどうやって伝えていくのかは、整理していかないと実効性のある計画、実際に使ってもらえるものにならないのではないかなと思う。検討していきたいと考えている。

## 6 報告

(1) 多摩市自転車用ヘルメット購入助成事業について

**○事務局**

- ・10月23日から申請受付している。助成要件を満たした自転車用ヘルメットを購入された市民に対して2,000円分のauPAYギフトカードを送付するものである。現時点で、500件程度の申し込みで、まだ上限に半分程度余裕がある。職場の方、周りの方等で、多摩市民限定という形にはなるが、ぜひ使っていただくように宣伝していただければと思う。

(2) 次の任期に係る多摩市地域公共交通会議の委員の推薦について

**○事務局**

- ・多摩市地域公共交通会議は委員の現任期は令和4年4月1日から令和6年3月31日までとなっている。任期満了に伴って、所属先に次の委員の推薦等をお願いする。3月下旬をめどに別途お送りさせていただこうと思うので、よろしくをお願いする。

## 7 閉会

以上を以って全ての予定を終了したため、会長より要点録の署名について中村委員と佐藤委員が指名され、会議を終了した。

以上